第 26 回 丹沢大山自然再生委員会（令和 7 年度総会）
議事録

日時： 令和 7 年 7 月 3 日(木) 13:00～16:00
会場： 神奈川中小企業センタービル 14 階 多目的ホール

○事務局　安居院課長

定刻となりましたので、これより第 26 回丹沢大山自然再生委員会を開会いたします。

開会に先立ちまして、数点ご説明させていただきます。本日の資料につきましては、事前に郵送させていただいておりますが、お持ちになっておられない方や、また不足の資料等がありましたら、事務局員の方までお申し付けください。また、出席者名簿等の当日配布資料につきましては、お手元にご用意しましたので、後程ご覧ください。

それでは今から第 26 回丹沢大山自然再生委員会を開会させていただきます。

本日、委員 43 名のうち、出席者 27 名、委任状提出 5 名、書面表決による賛成 0 名、合計 32 名となります。議案は、32 名の過半数をもって決することで、ご報告いたします。

それではここからの議事進行につきましては、勝山委員長にお願いいたします。

○勝山委員長

委員長の勝山です。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しいところ、また猛暑の中、丹沢大山自然再生委員会の総会にご出席いただき誠にありがとうございます。丹沢大山自然再生委員会は 2006 年 10 月にスタートして、今年で 19 年になるんですけれども、いよいよ 20 年に近づいてきております。

本日の総会ですけれども、まず定例となりますけれども昨年度の事業実績及び決算を報告していただき、皆さんにご審議していただきます。その次に、今年度の事業計画及び予算について、さらには、今年度の活動報告会の開催の方針などについても、お諮りしたいと考えております。その後、各専門部会から、昨年度の活動状況について報告していただきます。最後に、昨年と同様に、意見交換の時間を今回も設けております。昨年の総会では、県の水源税に関するちょうど切り替わる時期もありましたので、水源税に関する意見が出され、それをきっかけに急遽皆さんの意見を取りまとめて、令和 6 年、昨年 12 月に県へ要望書を提出いたしました。

今年度は、当初からの予定ですけれども、県の丹沢大山自然再生計画の改訂にあたって再生委員会の意見書を取りまとめて提出することになっております。本日の意見交換では、まず、このことについて自由な意見を言っていただいければと思っております。本日、いつも定例の部分と、そのあとまた意見交換まで、内容がかなりありますので、円滑な議事の進行に努めたいと思いますのでご協力をよろしくお願いいたします。

それでは早速議事に入りたいと思います。

それではまず、議案 1 の令和 6 年度事業実績報告と議案 2 の決算報告について、あわせて事務局の方から説明をお願いいたします。

【第１号議案　第２号議案　第３号議案】
＜事務局より資料１、２に基づき説明＞

〇勝山委員長
　どうもありがとうございました。質疑応答に入る前に、第３号議案の令和６年監査報告を先に済ませておきたいと思いますので、高柳監事、小川監事から監査報告をお願いいたします。

〇高柳監事
　ウエインズトヨタ神奈川の高柳でございます。
　令和７年６月２日に丹沢大山自然再生委員会の監査を行いましたところ、収支決算が適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。以上です。

〇勝山委員長
　どうもありがとうございました。続いて、小川監事、お願いいたします。

〇小川監事
　森林組合連合会の小川と申します。よろしくお願いいたします。
　令和７年６月２日に丹沢大山自然再生委員会の監査を行いましたところ、収支決算が適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。以上です。

〇勝山委員長
　ありがとうございました。
　それでは、まず１号議案の令和６年度事業実績報告と、それから議案２の決算報告について、何かご質問等がございましたら、お願いいたします。何かございませんでしょうか。

＜質疑応答　なし＞

〇勝山委員長
　それでは特にご質問等がないようですので第１号議案の６年度事業実績と、それから令和６年度決算報告すべき議題３の令和６年度監査報告について、ご承諾をお願いしたいと思います。
　ご異議がなければ、拍手をお願いいたします。

〇一同　拍手

〇勝山委員長
　どうもありがとうございました。本件は承認されました。
　寄付等のご協力をいただきましたウエインズグループ様、本当にありがとうございました。御礼申し上げます。

【第４号議案】
○勝山委員長
　それでは、続いて議案４の役員監事の改選についてですが、役員というのは、委員長と副委員長、それから監事で任期が２年となっております。今回改選の年になりますので、現在の役員は、資料４の委員名簿の通りです。この役員の改選選任については委員の互選ということになっておりますので、皆さんにお諮りしたいと思います。いかがでしょうか。

○石川委員
　引き続き勝山委員長、滝沢副委員長、高柳委員と小川委員に監事をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○勝山委員長
　ありがとうございます。ただいま、石川委員の方から重任の発言がございましたが、皆様ご賛同いただけるでしょうか。
　異議がなければ拍手をお願いいたします。

○一同　拍手

○勝山委員長
　どうもありがとうございます。続いて専門部会の部会長ですが、本日の総会の前の各部会において部会長が選任されています。事業計画評価専門部会と調査専門部会については、秋山部会長糸長部会長が引き続きそれぞれの部会長として選任されております。また、県民事業専門部会に関しましては、これまで小林部会長に代わって、副委員長でもあります滝沢委員が兼務として新たに部会長として選任されております。各専門部会の部会長についても、皆様ご賛同いただけるでしょうか。異議がなければ拍手をお願いいたします。

○一同　拍手

○勝山委員長
　はいどうもありがとうございます。では、県民事業専門部会の部会長を長い間努めていただきまして退任される小林委員から一言いただければと思います。

○小林委員
　県民事業専門部会長の小林と申します。もともとの団体は、丹沢自然学校です。それから丹沢大山ボラネットの会員になり、そこの代表を務めさせていただいて、この再生委員会に参加させていただいておりました。それで再生委員会の県民部会長は、６年３期、皆様の協力のもとにさせていただきました。本当にありがとうございました。周りが本当にしっかりしているので、本当に私は安心して皆様の後をついていくことができました。今後も、今ボラネットの世話人会の代表をしてお

りますから、あと１年はこの再生委員会に顔を出しておりますから、よろしくお願いします。
本当にありがとうございました。

〇勝山委員長
　どうもありがとうございました。
　では新たに今回、県民事業専門部会の部会長になられる滝沢副委員長からも一言お願いしたいと思います。

〇滝澤副委員長
　はい。小林委員から、県民事業専門部会の部会長を引き継ぎます滝沢です。よろしくお願いいたします。コロナの感染が広まってから事実上、県民事業専門部会としては、普及啓発チームの活動が主だったと伺っております。それで今年度からは、公園協会の宮地様が、普及啓発チームを率いてくださることになりましたので、では県民事業専門部会としては何をしましょうか、ということになります。それで、今までの活動されてきた内容だとか、あとは皆様のご意見を伺いながら、事務局の方にもご協力いただきまして、今後進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〇勝山委員長
　どうもありがとうございました。
それでは役員の方はこれで承認されましたので、続いて５号議案の令和７年度事業計画と第６号議案の予算案について事務局から説明をお願いいたします。

【第５号議案　第６号議案】
＜事務局より資料 5-1、5-2、6 に基づき説明＞

〇勝山委員長
　どうもありがとうございました。
秦野市さんから先ほどのイベントのところで出てきている名水サミットのプリントが配られておりますので、秦野市の谷課長、もしよろしければ一言おっしゃっていただければ。

〇秦野市　谷委員
　秦野市の谷です。すみませんお時間いただいて。後援イベントについて、今日机上配付させていただきました。全国水環境保全市町村連絡協議会－全国名水百選の自治体で構成している団体でありますけれども、こちらの全国大会を今年秦野市市政施行 70 周年の記念事業の一環として誘致いたしました。
　期日が、今年の 11 月 8 日の土曜日になります。裏面に事業予定があります。テーマというのが、名水というのには訳があるというテーマで、午後からシンポジウムの開催をいたします。シンポジ

ウムの基調講演にあたりましては、昨年こちらの報告会でも講演をいたしました、かながわ淡水魚復元研究会の勝呂さん、他、県の温泉地学研究所の所長の宮下さんや、平塚市博物館の野崎さん等々ですね、それぞれ多種多様な分野にわたる方々にご講演をいただく予定となっております。またそのあとのパネルディスカッションにおきましては、神奈川県内名水百選が 3 ヶ所ございます。1 つが秦野の秦野盆地湧水群と、山北町さんの洒水の滝滝沢川、あと南足柄市さんの清左衛門地獄池－県西部２市 1 町でありますけれども、できれば首長さんを交えましてパネルディスカッションを水源地域における名水という形で伺っていきたいというふうに考えております。またこの日、午前中はポスター展示と、こちらは丹沢大山自然再生委員会の活動報告であるとか、その他、県内各種団体、或いは大学の研究成果と、こういったものの提示もございますので、ぜひこの委員会のメンバーの皆さんも秦野市の方にお越しいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〇勝山委員長
　はいどうもありがとうございました。11 月 8 日は是非、日程を何とか空けてご参加いただければと思います。ありがとうございます。
　それでは質疑応答に入りたいと思うのですけれども、事業計画の中にございます活動報告会については、その次の議案の中で改めて説明申し上げますので、活動報告会以外の事業についてのご意見等或いはご質問などありましたらお伺いしたいと思います。併せて、予算案もご意見があればお願いいたしたいと思います。いかがでしょうか。

＜質疑応答　なし＞

〇勝山委員長
　ございませんでしょうか。
　はい。それでは第 5 号議案、令和 7 年度事業計画と第 6 号議議案、令和 7 年度予算についてご承認をお願いしたいと思います。特に異論もございませんでしたので、よろしければ拍手で承認していただきたいと思います。

〇一同　拍手

〇勝山委員長
　どうもありがとうございました。本件は、ご承認いただきました。
続いて第 7 号議案の令和 7 年度丹沢大山自然再生活動報告会について、事務局から説明をお願いいたします。

【第 7 号議案】
＜事務局より資料 7 に基づき説明＞

○勝山委員長
　どうもありがとうございました。
　ただいま説明がありましたように、今年度はさがみ自然フォーラムと連携して開催しようというアイデアがでております。もしよろしかったら厚木市さんから、一言ちょっと補足していただければ。

○厚木市　小宮委員代理
　ありがとうございます。厚木市環境政策課の小宮と申します。よろしくお願いします。
　先ほど内山さんからご説明いただきました通り、もしよかったら今年度、丹沢大山自然再生活動報告会を厚木で一緒にやらないかというお申し出をいただきました。厚木市では毎年さがみ自然フォーラムを開催しており、今年度はちょうど25回目の節目となっております。
　毎年度期間中には、概ね千人を超える方がこのフォーラムに来ていただいていますので、その中で活動報告会をやることで、互いに相乗効果が生まれ、市民や県民の方に自然、生物などに対する理解促進がさらに深まることを期待しています。
　まだまだ内容につきましては詰めている段階ですが、双方のイベントにとってより盛り上がることができるよう、引き続き内山さんと打合せを続けていきますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

○勝山委員長
　はいどうもありがとうございます。
県自然保護協会の方は、ずっとこのさがみ自然フォーラムの方で関わってこられておりますので、何かコメントがありましたらお願いします。

○青砥委員
　神奈川県自然保護協会の青砥と申します。
　さがみ自然フォーラムは、さっき小宮さんがおっしゃった通り、今年で25回目を迎えるんですけども、始めは細々とした者同士の集まりから始まって、今や県内のいろんな団体の横の繋がり、それからその活動していることを県民に広報するということで、だんだんだんだん大きくなってきている集まりでございます。その中でこの度、丹沢の自然再生委員会の方とコラボしてできるということは、誠にありがたいことだと思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。皆様がたの応援もよろしくお願いしたいと思います。

○勝山委員長
　はい。どうもありがとうございました。何か今回の厚木市で、さがみ自然フォーラムと連携してっていう方向性で行きたいということで話が出てきていますが、他の委員の方でご意見、ご質問などがありましたら、お伺いしたいんですけれど。よろしいでしょうか。
　それでは、引き続き、幹事会等で調整しながら、厚木市さんそれから自然保護協会さんなどと協議しながら進めて参りたいと思います。調整については幹事会に一任していただければありがたい

んですけれども。特に、ご意見もなかったようなので、よろしければ拍手でご承知いただければ。

〇一同　拍手

〇勝山委員長
　どうもありがとうございました。時間はまだまだあるようで、案外すぐに来てしまいますので、しっかりと企画していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
以上で、いわゆる議事の部分については、7 議案すべて承認していただいたんですが、ちょっと早いんですけれども、そのあとの流れからいくと、休憩を取るならここかと思いますので、10 分間だけ休憩っていうことで。それでは、1 時 55 分に再開したいと思います。

＜　10 分間休憩　＞

〇勝山委員長
　はい。それでは皆さん戻られたようですので、報告事項へ入りたいと思います。
　各専門部会からの報告です。まず事業計画評価専門部会から秋山部会長よろしくお願いします。

【報告事項（1）】専門部会からの報告について
　（ア） 事業計画・評価専門部会

　＜秋山部会長より資料　にもとづき令和６年度の活動について報告＞

〇勝山委員長
　はいどうもありがとうございました。今の報告について何かご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

　＜質疑応答なし＞

〇勝山委員長
　それではまた、後でも意見交換のときにもまたチャンスがあると思いますので、その時に意見をいただくとして、次に進みたいと思います。
　次に、県民事業部会からの報告です。小林前部会長から報告をお願いいたします。

　（イ） 県民事業専門部会

＜小林部会長より資料８にもとづき令和６年度の活動について報告＞

○勝山委員長
　どうもありがとうございました。県民事業部会からの報告でしたが、何かご質問ご意見等ございましたらお願いいたしますが、いかがでしょうか。
　また、ホームページなどで、ご覧になっていただければと思います。

＜質疑応答　なし＞

○勝山委員長
　どうも、ありがとうございました。
　それでは次に、調査専門部会からの報告です。糸長部会長から報告をお願いいたします。2 件の成果報告がありますので、質疑は 2 件の調査報告が終わった後にお伺いしたいと思います。

（ウ）調査専門部会

＜糸長部会長より資料９にもとづき令和６年度の活動、令和６年度の実施課題について説明＞
＜糸長部会長より資料９ - 1～3 にもとづき 2 件の助成研究について説明＞

○勝山委員長
　はいどうもありがとうございました。調査部会の方の活動について、回答ができるかわかりませんけれども、研究内容なもの、ご質問等でもよろしいかと思います。何かございませんでしょうか。
　特にございませんか。じゃあ、羽澄さんお願いいたします。

○羽澄委員
　1 つ目の柵の調査のことで、地味ながら丁寧なお仕事をされていてとてもいいと思うのですが、この企画書の目的には野生動物と人間のより良い棲み分けについて考えると書かれているわけですが、この目的と結果の繋がりのところの考察が抜けてしまっているところが残念です。現場が保全センターの裏のエリアということで、例えば保全センターの動物系の専門家の方がいらっしゃれば、ちょっとご指導いただいて取りまとめて、可能であればコンパクトながら何か学会誌に投稿するとかですね、そういうところにつなげるようなことをしたらよいと、思いました。そのあたりは調査部会としても、ご指導するようなことがあってもいいかもしれないと思いました。

○糸長部会長
　ありがとうございました。今のは非常に重要な点で、調査部会としてのアフターケアをちゃんとしなきゃいけないっていうのは当然あるわけで。そういう意味で考えますと、1 つはあそこのエリアの電気柵は厚木市さんが管理だと思うし。ですから、今回のやつを厚木市さんと保全センターと、あと当事者と含めて報告会をちゃんとやって、その上で今後どういう管理手法をとっていったらいいのかという辺りのですね、ある意味追加調査研究というのを潤沢な調査部会の活動費をいただき

ましたので、そういう意味でいうと、こちらからのお願いとして、それなりの金額で追加で、どうしたらいいかっていうあたりですね。これ、センターも絡んでいますから、6月の発表会であまり強く言わなかったんだけど、単純に言うと、管理者ヒアリングしてないんですよ。通常はこれ、卒論とか修論だったら、お前こんな管理者に対して聞き取りしないのかっていう、普通そういう話になって。そこまで今回はあんまり言いませんでしたけど。だから今年度はやっぱ管理者を交えてですね。
あとは動物行動学ですから、動物行動に詳しい―シカ等々ずっとやってらっしゃるわけですから、含めて、何か公開でもいいから勉強会を、責めるというじゃなくて今後どうしていくかっていうことを含めてですね、やっていけばいいかなと思います。

〇羽澄委員
　社会的な要請はすごく高まっているテーマなので、その辺はぜひ深めていただくといいと思います。
ありがとうございます。

〇糸長部会長
　ちょっと厚木市さんに振って申し訳ないんですけど、ちょっと窓口になっていただいて。センターの電気柵は厚木市さんをつけたと思いますので、ちょっと今後の対策も含めてですね、一緒に検討できればいいかなと思っています。

〇厚木市　小宮委員代理
　わかりました。部署はおそらく農業政策課になりますので、私を通じて連絡を取りたいと思います。

〇糸長部会長
　すいません。よろしくお願いいたします。

〇勝山委員長
　はいどうもありがとうございました。他にはございませんでしょうか。秋山さんお願いします。

〇秋山部会長
　今回の発表とか報告がないので大変申し訳ないんですけど、今森林総研に移られた土井寛大さんが以前にこの事業でマダニの感染症に関する研究をされていて、私自身非常にそれが社会的な要請の中でも重要だなと思っていて。今、ちょうどこのタイミングで、毎週のようにそのマダニによる感染症の方ニュースが流れていますよね。特にＳＦＴＳが、死者を出しているという状況で、私自身も丹沢のマダニが媒介する感染症に関してものすごく懸念を持っているんですね。土井さんが今丹沢を扱ってらっしゃるかどうかわからないんですけども、非常に今重要な丹沢の課題になっているんじゃないかと思うんで、日大でアプローチするのか土井さんにアプローチするかわからないんですけど、やっぱり今後そういうマダニに関する感染症の研究を調整していくようなアプローチを

したほうがいいんじゃないかなというふうに思っていますが、いかがでしょうか。

〇糸長部会長

ありがとうございます。土井さんはずっと継続でやってらっしゃると思いますが、要は分析するのにお金がかかるんで、30 万でギリギリだと。この仕組みがあってなかなかできなかったんですけど。

研究蓄積の披露ですね。勉強会も含めて、去年はやっても 1 回ぐらいしかできてませんので、今年度の調査部会の 1 つの公開勉強会のテーマとしてもですね、新しい情報も含めて教えていただくということは当然考えたいと思います。どうもありがとうございました。

それでついでですけど、ヒル。ヒルの勉強会的なこともちょっと検討しなきゃいけないかなと思ってまして。千葉の方は鴨川等々がヒルの被害が大きいので、ちょっと千葉県とも何か連携取ったり。或いは東大でやってるグループが確か森林でいたと思うんですけど、連携取りながら。ヒルに関しても、去年秦野市さんでやられた時に、ヒル釣りのお話もあったりしてですね、丹沢としても、イベント的というよりかは、地道な調査研究としてもですね、しっかりと位置付けていった方がここの再生委員会の意味も社会的にも考えてもらえるかなというふうに思っていますので。それも谷さんに振って申し訳ないんですけど。

〇秦野市　谷委員

はいありがとうございます。

ヤマビルについてはですが昨年度の活動報告会の冊子の中でも、報告がまとまって出ておりますが、先ほど秋山先生の話があったような、マダニのように人命に関わるものではないんですけれども、やはり丹沢訪れる人が非常に忌み嫌うようなものとしてですね、取り扱われております。それにはやはりヤマビルの生態をなかなか知らない人たちがまだまだたくさんいてですね、ヤマビルがなぜ血を吸って、どういうふうに人についてくるのか、或いは突然ついてくるのかというところからですね、知れば、それをもとに防ぐことっていうのも自然と理解が深まってくると思っております。地道ですけども、つい 2 週間ぐらい前に秦野市のくずはの家でも、観察会でヤマビルを知ろうということで、観察会をやりました。今年度 20 名ぐらい募集枠いっぱいに参加者の方に来ていただいてですね、それぞれがヤマビル 1 匹ずつ持って、実際に触れて、どういう行動をするのかとか、薬剤、塩であったりとかお酒であったりとか、どれを嫌うとか実際に実験をしてみると、終わる頃には非常に参加者－子供から大人までですね、ヤマビルにも慣れて騒ぐことなく冷静に対処ができるといったこともあります。そうですね、まずは広く知っていただくというところから、できればなというふうに思ってるんですけれども。今年度できたら、昨年報告がありました丹沢の方からも、ちょっと研究費等をいただきながらやりたいっていう意向があったんですけども、ちょっと内容的にですね、まだちょっとうまく合わなかったというところで、今年度はないんですが、ぜひこちらの丹沢大山自然再生委員会の中でもですね、取り扱っていただければよろしいのかなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

〇糸長部会長

ありがとうございました。

○勝山委員長
はい、どうもありがとうございました。何か他にもございましたらお聞きしますけれども、よろしいでしょうか。いくつか課題もありましたので、その辺クリアしながら、調査部会も勉強会等を含めて企画していきたいと思っております。
以上で調査専門部会からの報告を終了します。糸長先生どうもありがとうございました。それでは、各専門部会報告はこれで終わりです。
次にその他の報告事項として、事務局からの報告をお願いいたします。

【報告事項（２)】その他報告

＜事務局より資料 11、11 関連に基づき説明＞

○勝山委員長
はいどうもありがとうございました。今回これは猟友会の方からご提案くださったということで、ぜひ猟友会からも一言いただけると。

○安藤委員
ただいまご紹介いただきました、猟友会の安藤と申します。よろしくお願いいたします。
この度丹沢大山自然再生委員会の構成員としまして、シカ管理に貢献するとともに、将来にわたっての取り組みを維持するために人材の育成をすることを目的としまして、活動いたしますので、今後ともよろしくお願いしたいと思います。

○勝山委員長
はい。どうもありがとうございました。この後、モデル地域については先ほどの内山さんの話もあったんですけれども、調査専門部会でも議論したいところなんです。そのあたり糸長部会長から少しコメントいただければと思います。

○糸長部会長
いくつか検討しなきゃいけない事はあると思うんですが、具体的な場所が決まって、そこでの生物多様性の問題、或いは人工林の維持管理の問題、或いはツーリズムの問題等含めてですね、複合的な問題を１つ１つちょっと広いですけども、エリアで考えるいいフィールドができつつあるかなというふうに思います。その時に関連市町村との連携も重要になってきますので、ここでの清川村と厚木市含めて地元の自治体との連携をですね、図っていくということが重要かなというふうに思うところです。
提案の１つとしては、県の自然環境保全センターも考えていると思いますけども、フォーラム的

なもの、協議の場、ラウンドテーブルの場をですね、設置をするということ。年に 1 回でもいいと思いますけども、そこに関係者、ステークホルダーの皆さんが集まって、それぞれ持っている情報ー長年やってきている結果もあると思いますので、それを一堂に会してやると。調査部会としては、何らかのお手伝いができるとすれば、そういう場づくりとか、そこでの意見交換をより進めていくっていうこともあり得るかなと思います。

これは内山さんへの質問になってしまうかもしれませんけど、何とかモデル地域という言葉をつけていただくといいかなと思います。

〇事務局　内山

そうですねキャッチーな名前があったほうがいいと思います。まだ上手いフレーズが決まっていなくて。すいません、いいお知恵があったら皆さんお願いします。

〇糸長部会長

はい、わかりました。じゃあそれは宿題という事で。

〇勝山委員長

はい、どうもありがとうございました。他の委員の方からも、このモデル地域、こういう形で猟友会さんと提案を発して発展しつつあるところなんですけれども、何かありましたら。この後の意見交換のときされても結構だと思いますけれども、もしこの場であればお伺いしたいんですけどよろしいですか。

はい、それではありがとうございます。それでは、報告事項の方は、これで終わりにしたいと思います。

では、この後、意見交換の時間をとりたいのですけれども、意見交換に当たり、資料 12、13 も含めて、事務局からまず説明をお願いいたします。

【意見交換】

＜事務局より資料 12、13 に基づき説明＞

〇勝山委員長

はいどうもありがとうございました。皆さんのご協力により、この意見交換の時間 10 分ほど長く取れそうです。一応予定では、3 時 40 分にまとめに入りたいと思いますので、糸長部会長、秋山部会長、3 時 40 分に集約して意見の報告をしていただくということで、始めたいと思います。

それでは、それぞれ参加したいグループの方へ移動していただければと思います。

【意見交換】　結果

〇勝山委員長

それでは、ちょっと時間の制約もあり、なかなかまとめにくいところもあるんですけれども、各グループから出た意見について、全体で共有したいと思います。

じゃあ、グループ１の方から概要を話していただきたいと思います。お願いいたします。

〇糸長部会長

13 名の参加で初めての方もおられたんですけども、ベテランの方もいらっしゃいました。大きくグループでわけると、まず、森から里山まで含めて、やっぱりちゃんとした管理と活用をする。そのためには、森林の保全活用のため、ゾーニングをもう 1 回しっかりとやるか、或いはそれについて理解するかということでしょう。それから里山に関しては、鳥獣被害問題も相当深刻になっている。里山の管理をどうやって今後継続していくのか。それは担い手不足も含めてっていう課題が、今後の野生動物の出没等も含めて出て参りました。

人材不足ということで言うと、行政ももう人材不足で、行政の限界もある。地元も当然担い手不足で人口も減少していくと。そうするともうこのままあと 10 年 20 年先やばいんじゃないか。でも、そうは言っても、1 人が 2 つ 3 つの仕事をするというふうに考えれば、さっきちょっと申し上げたんですが、行政と企業とのいい意味での連携等々含めて、もっとやるべきことは多々あるなと。やっぱり重要なのはその人材育成をどうやっていくのか、具体的な。今日は秦野市さん来ていらっしゃいますけど、くずはの家でやってるような人材育成ですね、ああいうものをもっともっと丹沢全体の中で広めていく。そのためにはどういう仕掛けがあるかという事ですね。そういう仕掛けをしていく上では、今日提案があったモデル地域ですね、あのエリアの中でいろいろ企業も入ってるし、ＮＰＯも入ってるし、あと自治体も含めて、今日は猟友会の方もおられますが、多様な人達が集まってちゃんとした意味での科学的な技術的な裏付けを育成していくと、そういう人材育成もしっかりとやっていくと。その上で、これは夢ですけども、丹沢としての一種の経済です。丹沢の中で起きる経済をやっぱしっかりと起こしていこうというふうに思います。

ちょっと私さっきも言ったんですが、先週台湾にいたんです。台湾は、今里山再生が大ブームです。日本のことを一生懸命学んでいます。かつ里山からできる産品を一生懸命開発しようとしています。あと伝統文化も含めて。それは複合的な意味で、地域の経済だし、それを担う 1 種の企業というか地域企業というものも起きてることは間違いないです。そういう動きは日本でもたくさんありますので、丹沢の中でそういう動きをぜひ目指してほしい。それからあとは、若者ですね。若者をどう将来のことも含めて、協力してもらうかと。そのためにはいろんな分野の若者いるんだけども、やっぱり大学との連携等を含めてしっかりとやっていく。モデル地域のところで大学との連携をしっかりとですね、意識的にやっていただきたいなと。今日は農工大とか先生方も来てますから、ぜひぜひ、日大もそうなんですけども、入ってきた人たち、次の育成も含めてやっていければと思います。

もう 1 つ最後ですけども、丹沢の再生、の合意を再度ちゃんと取ろうと。何が丹沢の自然再生なのかも地域再生も含めてですね。それをもう 1 回、しっかりとみんなのものにしていくということが重要なこと。

最後に 1 点だけですけど、私が最後に言ったのは、例えば今回の再生計画ですね。県の再生計画で森林の何か整備します。そこに入札して企業が入ってきますと、単年度っていう。そういう仕組

みとは別にですね、もっと県民や地域の人たちも参加できるような、そういう事業メニューをですね、県も作って欲しい。この再生委員会そのものは大した予算があるわけじゃないですから、やっぱ本体の方で、そういう県民参加とかＮＰＯの参加とか含めてですね、多様なステークホルダーが参加できる事業展開をですね、次の第５期になるのかな。自然再生計画の中で組み込んでいただくといいのかなと。今ちょうど猟友会の会長さんの顔がパッと見えたんで。例えば猟友会の事業としてモデル地域でやる場合にですね、それをやっぱり県の 1 つの事業としても展開していくということが非常に面白いし、その時にモニタリング等々になれば大学の野生鳥獣の先生たちと組むとか、日大の女性の獣医さんと組んで調査をしたいと思うんですけども、そういう仕掛けをですね、ぜひ作っていくと、より丹沢再生の次のステップに行けるんじゃないかいうふうに思いました。以上です。

〇勝山委員長
　次、秋山さんお願いします。

〇秋山部会長
　はい。2 グループに分かれて各論と総論ってそう広げられるのかなあと思っていたら、糸長先生が見事な総論の取りまとめをしていただきました。もうこのふせんの状態がモデレーターの技量の差をあらわしていて恥ずかしいんですけど。でも皆さん参加されたグループの方がしっかりと意見を出していただいて、それを視覚的にちょっとまとめられなかったんですけど。何より各論として、今一番、数で、今までもやってきたけどこれからやらなきゃいけないっていうことで、皆さんが気になったのはやっぱりシカの問題でした。圧倒的にシカの現況、どの程度丹沢の植生に影響を与えるのかとか、そもそもそのシカの個体数って今どうなってるのかとか、そういったことが、これまでずっと調べてきてるけれども、じゃあ最新の情報ってあるんだろうかっていうと、ちょっと心もとなかったりします。それを、継続的に調べていかなきゃいけないんじゃないかっていうこと。一方で、シカの影響の部分ですけど、その土砂の流出がどうなってるのかとか、あとその下層植生が今どの程度ダメージを受けているのかってことも含めて、やっぱり気になるということ。それから一方で、確実にこれまでの 20 何年間で、その成果を上げている部分っていうのがあって、それはもっとアピールしなきゃいけないんじゃないか。なかなかその行政が、行政というか丹沢大山自然再生委員会として上げてきた成果をもっとアピールしたほうがいい。で、大分その成果の対策のおかげで良くなってる部分もあるんじゃないか。例えば、塩水林道の植生の回復だとか、砂防ダムの周りに随分緑が増えてきたみたいなああいうものを例として、もっともっとそういう部分も挙げつつ、今後の対策を練っていく必要があるじゃないかということが挙げられました。
　それから、もちろんシカ以外のことも非常に気になっていて、野生動物でいうとツキノワグマの個体数っていうのはどうなってるか。丹沢ツキノワグマって、推定値というのはもちろん挙げられてますけども、実際どうなんだろうかとか、あとその水域の生物、渓流の生き物、魚類だとか両生類だとかっていうものも、細かいところで調査が行われているんだけども、丹沢としては把握しきれてない部分もあるんじゃないか。それから、さっきのシカを含めて人間の生活圏に入ってくる野生動物との人間社会とハレーションを起こしている部分に関して、その部分をもっと注目したほうが

いいんじゃないか。特に、なぜ里におりてきてしまうのかっていう問題も含めて、考えていかなきゃいけない。

そういうことを考える中では、やっぱり一般の人のヤマビルだとかシカとかイノシシだとかそういう野生動物に関する一般の方へのやっぱり普及啓発を進めていく必要があるだろう。特にヤマビルに関しては、そもそも研究者が少ない中で、正しい知識を山麓の人だけでなく、登山者も含めて普及啓発をしていく。現に今登山者が、ヤマビルを忌避する。もう、暖かい時期には丹沢に入りたくないっていうような登山者もいるようなことに対して、それを今後どうしていくかっていう、普及啓発も大事じゃないかっていうことが挙げられました。

それから外来種の問題もいくつかあって、アライグマはもうすでに丹沢に入っていますが、あと今、房総半島で問題になっているキョン。どんどん分布が北上しています。あれ対岸の火事のように見てますけれども、いつ火の粉が降りかかるかわからない。そういったことも、監視の目が必要だろうと。それから、今現実の問題としてはクリハラリス、いわゆるタイワンリスですけども、クリハラリスが、神奈川県にどんどん分布を北上させていて、丹沢に入ってしまうのは時間の問題じゃないかというふうに言われていて、それもしっかり侵入を監視しなきゃいけないだろう。そういう新しい問題っていうものにも対処していく必要があるんじゃないかと。

あとは、今後新たにやっていかなきゃいけないこととしては、やっぱりその人間が丹沢にどれだけ関わっているか、関わりを持ち続けるかってことになると、そのオーバーユースの問題ももちろんだけど、人間がその関わりの手をゆるめてしまったときに何が起きるのかってことも、ちゃんと見て、考えていかなきゃいけないんじゃないかっていうこと。それからもちろん新しい技術を活用した調査があっても進めなきゃいけないんじゃないか。ＩＣＴの活用もそうですけれども、今後そういった技術を取り入れることによって、やっぱりその担い手の問題、その中でも出ましたけどやっぱりその企業の位置付け、企業との丹沢自然再生ということで、両者Ｗｉｎ－Ｗｉｎなるような形の関わり方っていうのを模索してかなきゃいけないだろう。それから、その中でＩＣＴとかデジタル技術の活用も、考えていかなきゃいけないんだろうということでありました。

あとは細かいところで言うと、大気汚染。オゾンの事も大気汚染の影響とかもしっかり見ていかなきゃいけないだろうとか。そんなところですね。ちょっと私の方で追いきれてない部分もあるんですけども、総論としてやはりそのシカにまつわる部分っていうのがやっぱり皆さん共通の問題認識として挙げられていたので、今後も継続していかなきゃいけないんだろうなっていうのが、まとめになります。以上です。

〇勝山委員長

はい、どうもありがとうございました。残りの時間も全くないので、ほぼ時間いっぱいいっぱいなんですけれども、最後に何かおっしゃりたいことがあるって方がいらっしゃれば。よろしいですか。今 2 つのグループそれぞれやっぱり総論と各論とは言っても、集約しているところは多分同じじゃないかと思いますので、今後、幹事会それから各事業評価、それから調査部会で、丹沢再生の県に対する意見書をまとめるにあたって、取り入れていきたいと思います。どうもありがとうございました。有意義な時間だったんじゃないかなと思います。

では最後にその他ですけれども、委員の皆様から何かございますでしょうか。オブザーバー参加

の皆さん、何かございますでしょうか。水源環境保全課の方から情報提供があるとお聞きしてるんですけれども。お願いいたします。

○水源環境保全課　井出課長

はい。皆さんこんにちは。水源環境保全課長の井出と申します。いつもお世話になっております。1 点、情報提供でお知らせをしたいと思います。

昨年来、次期水源の計画について県で検討を重ねているようなところでございます。昨年 12 月にも当再生委員会の方からも、知事宛にご要望いただきまして、それも踏まえまして、検討を進めさせていただきまして、今回、新たな計画の素案、まだ素案の段階でございますけども、素案を取りまとめさせていただいたところでございます。この度今月の 23 日、7 月 23 日からですね、8 月の 25 日、約 1 ヶ月間、の間においてですね、パブリックコメントを開催したいと思いますので、ぜひ皆様方からもご意見いただけたらと思いまして、情報提供させていただきます。ご案内につきましても事務局の方からちょっとお願いいたしまして、メールでも再度ご案内をさせていただきたいと思いますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。新たな計画の素案でございますけれども、ご要望いただきました内容にありましては、例えば丹沢大山保全再生対策、シカ管理、ブナ林の再生などの取り組みは、もちろん継続していきたいというふうに考えておりますし、また新たに里山林の取り組みなどについても新たに盛り込みまして、取り組みをしていきたいというふうに考えております。その他もろもろの新しい取り組みなどもですね、盛り込んでありますので、ぜひご意見お寄せいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

○勝山委員長

はい、どうもありがとうございました。今のお話に何かご質問か何かありますでしょうか。
よろしいですか。ありがとうございました。パブリックコメント等もぜひご覧になっていただければと思います。それから、その他のオブザーバー参加の方も含めて、何か皆さんの方からお話がありましたらお願いします。よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、事務局からの何か伝達事項等がございましたら、お願いいたします。

○事務局　小永井

では事務局から 2 点ほど連絡事項がございます。

まず 1 点目は名簿の更新について、年度の途中でも委員の交代や変更などありましたら、都度ご連絡いただけますようお願いいたします。メールでも結構ですのでよろしくお願いいたしします。

もう 1 点、共催・後援の活動費についてです。再生委員会の構成員は、自然再生に関する広報普及啓発活動を行う場合に、委員会として共催・後援して、ホームページやイベントでの宣伝であったり、普及啓発グッズをお渡しして活用していただくといった、ご協力をすることができます。

また希望する場合は、助成金を支給することも可能です。こちらも共催・後援を希望する活動というのは随時受け付けておりますので、助成金の申請については、昨年度末に予算計上するために希望事業数っていうような形で調査していたんですけれども、年度の途中でも予算に余裕があれば申請していただいて助成することができます。ただし活動開始の 30 日前までに申請する必要があり

ますので、もし年度途中で申請する場合は、その点ご留意いただければと思います。助成金の希望をもうすでに出していて、暫定版の申請書をすでにご提出いただいている団体については、総会後に確定版の申請書を改めて送付いただく必要がございます。様式など、改めてメールで周知いたしますので、提出いただくようお願いいたします。事務局からは以上になります。

〇勝山委員長

はい、ありがとうございました。何か質問ありますか。よろしいですか。はい、どうもありがとうございました。

それではこれをもちまして本日の議事を終了させていただきます。事務局の方に進行をお返しします。どうも、長い時間ありがとうございました。

〇事務局　安居院課長

勝山委員長、議事進行ありがとうございました。

これをもちまして、第 26 回丹沢大山自然再生委員会を閉会いたします。皆様ありがとうございました。